

世界初、夢の純国産生糸「プラチナボーイ」 「きもの」の魅力を 銀座で発信している呉服店

銀座もとじ

銀座もとじ(中央区銀座、泉二弘
明社長、03・5524・3222)
は、老舗呉服店が多く立ち並び、日
本の文化の最先端である銀座に店
舗を構える呉服店で、現在は大阪
にも出店をしている。さらに、社長
の念願であった「大島紬」の専門店
を昨年2月に開店、泉二社長の故
郷は奄美大島で、大島紬をきつか
けに「着物の世界」に導かれた経緯
があったので、感慨もひとしおで
あった。

同社が現在最も力を注いでいる
のが、世界初、オスだけの蚕の繭か
ら紡がれる、夢の純国産生糸「プラ
チナボーイ」である。「オスの繭か
らはいいい糸がとれる」昔からそう
言われてきた。卵を産まないオス
の蚕は、メスよりも20%程度多く
の絹を生産し、身体にあるタンパ
ク質をすべて糸に吐き出すことが
できるため、メスの蚕が作り出す
糸に比べて、艶も丈夫さも糸の長
さもそして細さも特別なのだ。そ
して、同社が繭からプロデュース
して、長年の研究によって生まれ
たのがオスのみが孵化するという



泉二社長(右側)、左は社長のご息

新蚕。この蚕から紡がれる糸は、そ
の名の通りプラチナのように美し
い光沢を持ち、なめらかな肌触り
が魅力である。
同社の販売に対する考え方は、
「つくり手と消費者とのパイプ役」
である。実際に、養蚕農家、製糸、
染色、製織の現場に行つて製作工
程を見ることが、肌で感じたこと
を消費者へ伝えるとともに、産地
とのつながりを駆使したオリジナ
ル商品を提供することが可能とな
り、ニーズに合った販売が可能と
なる。

また、現在の呉服業界は女性向
け着物の販売が大半を占める中、
同社は以前より「男のきもの」を発
信し続けている。「めまぐるしく
推移する流行と、使い捨ての消費
社会であった20世紀が去り、21世
紀の現在は、モノを大切にする心
や環境に優しい和の文化が見直さ
れています。そんな価値観に共感
する方たちが、『きもの』の魅力に
目覚め始めているようです」と泉
二社長はいう。

詳しくはホームページにて

<http://www.motoji.co.jp/>



生産者がしっかりと明記されている大島紬の反物